

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52)=草津市(24)

## はい上がる人

### わたしの歩跡

△1998年1月、人気絶頂だったお笑いコンビ「猿若石」と共演した映画「一生、遊んで暮らしたい」が公開され、本物の役者を目指す道に一筋の光が差した。31歳のときだ▽

同じ中場利一さんの原作で、また大阪で映画を撮ることになり、同じプロデューサーから「中場さんが氣に入っているんで、土平君にやらして」とて。

△今回も頼むね。台本送るから読んで』って連絡があった。メイン4人のうち、1人がヘタレで面白い役だったんで、これ絶対、俺やろ。やりたいわ。プロデューサーは「今日は色を変えたい」と言っていたんですけど、結局はその役に決まります。『中場さんが絶対、土平君にやらして』って。

△共演する3人がお笑いトリオ「ネブチューーン」ですね。「ネブチューーン in どつきどつかれ」(1998年8月公開、小松隆志監督)。面白い作品になりましたわ。僕はチビマルという役で、3人と反対なのに、裏切って愚連隊の方に行ったり、都合のいいときだけ味方になつたりするんです。撮影期間の約1カ月、大阪のホテルに泊めてもらつて。ただ、ギャラは安かつたんで、バイト生活からは離れられません。それでもすごい生きがいを感じられるところに



## 直感で現在の芸名に

「一度見たら忘れられない」  
ドンペイさんがフェイスブックで発信中。「マシネマかなり見てますが、かなり活躍されてますよね。異常者のなヤクザとか、普通とは違う感じで一回で確実に名前を覚えても

△映画の一シーンから。今も交際が続いている原田泰造さん(右)と菅原文太さんの息子加織さん(右)と共に演じた映画「暮し花」=いずれも本人提供

「一生、遊んで暮らしたい」のエンドロールで自分の名前を見て、インパクトが弱いなあって。芸名をいろいろ考えたんです。どれもしつくり来んな。そうや、高校時代からのあだ名のドンペイはどうやる。ひらがなでは、左とん平さん(2018年に死去)をもじったみたいやけど、カタカナならバラエティーでもいける。姓名判断も何もせず、インスピレーションで決めたんです。『ドンペイ』にして間違いない良かった。

度見たら忘れられない役者さんやと思っています。これから更多的な活躍を楽しんでいます」とのエールが寄せられて。

△2002年、現在のウッドオフィスA3プロデュース(東京都港区)に事務所を移る△かわいがつてもらつた菅原文太さん(故人)の縁です。プロデューサーをやられていた映画「デコトラ外伝 人生夢一路」(2000年)と百姓一揆の映画「暮みし花」(01年)で、文太さんの息子の加織君と共演したんです。文太さんが「あいつ面白いなあ」とて、加織君の事務所だったウッドオフィスの社長に「顔は面白いけど、しっかりした芝居する」とて紹介してくださつたんです。

△事務所を移る前の01年10月、親交のあった加織さんが東京都世田谷区で、電車にはねられて31歳の若さで亡くなる△「加織の遺志を引き継ぎますよ」。移籍が決まって社長にいました。当時はマシネマに年40、50本出演して、主役もやってたんですけど、事務所は「マシネマはやめて、これからはテレビと映画だけにするから」って。

【編集局・大澤重人】

菅原文太さん=2014年撮影

らえるし、名前の響きと本人が同じやと皆さんおっしゃいます。

△2002年、現在のウッドオフィスA3プロデュース(東京都港区)に事務所を移る△



# 文太さんの縁で移籍